

「ECO+ものづくりプロジェクト」の実施報告

—学生の技術と資質の向上をめざして—

齋藤益美

岐阜女子大学家政学部生活科学科生活科学専攻

(2015年11月20日受理)

A practice report of the “ECO + Mono-zukuri Project” —Aiming to improve the technology of students and the quality of students—

Department of Home and Life Sciences, Faculty of Home Economics,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

SAITO Masumi

(Received November 20, 2015)

1. はじめに

岐阜女子大学生生活科学専攻への入学者のほぼ100%が中学・高等学校家庭科教員資格取得を希望している。さらに教員希望者のほとんどが教職に就いている（常勤・非常勤講師を含む）。その現状をふまえ学生一人ひとりが家庭科教員としての幅広い知識と技術を習得し、教員として必要な資質を養うための活動を行ってきている。平成26年度からスタートした、専攻の全学生による活動である「ECO+ものづくりプロジェクト」もそのひとつである。

2. 活動の契機

家庭科で学ぶ分野は、衣食住のほかに家族・福祉・環境・子ども・情報など幅広く、家庭科の専門高等学校では深く広い専門的な授業が行われている。本学生活科学専攻は、普通科からの入学者が大半であり、実技科目は家庭科の専門高等学校からの入学者と大き

な差がみられる。

本学学生入学時の調査から、小学校から高等学校で学んできた家庭科は実践的な内容が少なく、実技、特に被服関連の実技はほとんど経験していないようである。高校の家庭科においては針と糸を一度も使っていないと答える学生が多くなっている。

中学校学習指導要領から家庭科の時間数の変化を見ると、家庭科の時間数の全体に占める割合は学習指導要領の改訂に伴い減少している。同時に被服の実習に費やされる時間も減っていると考えられる。家庭科の教員をめざし入学してくる学生の被服実技の能力は20~30年前と比較にならないほど落ちているのが現実である。

被服実技の能力低下は家庭科の授業数の減少だけが原因ではない。ファストファッションの流行で安価に好みの衣服を入手することができ、衣服を製作することももちろん修繕して着用することもほとんどなくなってしまった。糸と針を使う必要がなく、ミシンのある家庭も少なくなっている。家族が縫い物

をする姿は日常ではなくなっていることも原因のひとつだと考えられる。

生活の中での「縫う」技術の必要性が減少しているとはいえ、アパレル関連の専門職は必要であり、被服の高い専門的知識と技術を教える高等学校も存在する。専攻ではどのような中学・高等学校にも対応できる知識と技術力を持った教員を養成する必要があると考えている。

被服の能力の習得に限らず、消費・流通・環境についての知識を持ち、さらに地域との交流、人とのコミュニケーション、運営や企画力、粘り強くやり抜く力、よりよい生活をトータルに考え実践する能力を身につけるために活動をすすめていきたい。この活動が、家庭科の授業と学級経営、生徒指導、進路指導に結びつくと確信している。

3. 活動状況

(1) 平成26年度の活動状況

平成26年3月にこちらから選出した2年生4名に趣旨を説明し活動準備をはじめた。(家政系専門高校出身者2名、普通科高校出身者2名)

平成26年4月から1・2年生で活動を開始した。3・4年生はアドバイザーとした。1年生からも4名のリーダーを決定し、4つの縦割りグループを作り2年生1名、1年生1名のリーダーを中心にグループ活動を行うこととした。下記の3点の目標を学生に提示し詳細な説明を加えた。

- ・技術の向上・知識の向上
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・環境に配慮した生活を提案

環境に配慮した活動のひとつとして、岐阜市に多く見られる靴下工場の靴下製造過程で出る廃棄物を使用して4年生が製作したアイ

デア作品「ECO Flower」(図1)をこの活動の中に組み入れ、ECO Flowerを使用した作品作りも課題とした。



図1 ECO Flower



図2 グループ活動の様子



図3 グループ活動の様子



図4 出店の様子



図5 おかあさんの手づくり応援します

表1 平成26年度の主な活動

| ECO+ものづくりプロジェクト 平成26年度活動報告 H27.1.16 | | |
|-------------------------------------|--|---|
| 月 | 活動状況 | リーダー会等 |
| 4 | リーダー決定、グループ決定、 全員に趣旨の説明と活動計画を報告 | 2年生リーダー会 (活動の打合せ) |
| 5 | グループ活動開始 | |
| 6 | グループ活動 フリーマーケット、クラフト展見学、レポート提出 リーダー写真撮影 HP作成の説明会と作成 | 1.2年生リーダー会 (会計について、共通購入品について、キャラクターデザインについて、HPIについて、社会貢献活動と環境を考えた活動について、どうさん菓子市までのスケジュール等) |
| 7 | グループ活動 出店デモ どうさん菓子市出店(7/19) | 1年生リーダー会 2年生リーダー会 1.2年生リーダー会 (活動状況について、商品についてどうさん菓子市参加に関わる打合せ等) |
| 8~9 | グループ活動 さざ草祭出店準備、商品の計画、製作 夏休みの活動計画 | |
| 10 | さざ草祭(10/18.19) グループ活動 織りの勉強会 | 1.2年生リーダー会 (さざ草祭について、商品、当番等決定と確認、HPIについて) 1.2年生リーダー会 (経費について、さざ草祭り上げ、反省、吉祥寺クラフト展打合せ、他) |
| 11~12 | グループ活動 靴下の廃棄物で指編み作品の勉強会 | |
| 12~1 | 「お母さんの手づくりを応援します」のための練習・準備 (きんちゃく袋、袴のレッスンバッグの製作をマスター) (きんちゃく袋、袴のレッスンバッグ販売用製作) (製作のプリントづくり、材料準備、キッド準備) | 1.2年生リーダー会 |
| 2 | 「お母さんの手づくりを応援します」のための練習・準備 (販売用袋製作) (材料、キッド準備) ワークショップ「お母さんの手づくりを応援します」開催 (2/16.17) | 1.2年生リーダー会 |

平成26年度の主な活動は表1に示したとおりである。

平成26年度グループリーダー(2年生4名、1年生4名)の1年間の活動に対する感想は以下のようなものである。

伊藤玲奈(2年)：商品製作は時期やターゲットを考え、売れるものを作らなくてはいけないので悩みました。でも、売れた時は嬉しかったです！部活と違い興味のある人だけでなく全員での取り組みなので意思が違う方向に向いていたり、技術力が違ったりでまとめるのにとっても苦労しました。言い方や、どこまで言うべきかわからず大変でした。

佐藤明希(2年)：この活動を通して、様々なことを身につけました。被服分野の技術向

上はもちろん、班の中での商品開発や運営などチームで何かを達成させることの難しさを経験しました。初めてのことがばかりで大変でしたが、達成感を感じました。来年も頑張ります。

竹中綾菜(2年)：初めての企画で何から始めたらいいいのか分からず戸惑うことがばかりでした。グループ活動ではリーダーらしい行動ができず、欠席が多いメンバーに何のためにこの活動をしているのかきちんと伝えられなかったのかもしれませんが、もっと一人ひとりが得意なこと、苦手なことを見て、みんなが技術を上げられるよう、また美しい作業ができるよう考えていく必要があったと思います。

長浜小春(2年)：商品としてもものを作るの

はとても難しく大変でした。出店するためのアポとりなど全てが初めての経験で、何をやるにもドキドキしました。でも、他のお店の方たちの話を聞けたり、アドバイスをもらえたり、お客さんとの関わりを通して「商品一つ一つ誰かのために」という何か暖かい気持ちで作ることができるようになった気がします。これからも技術力を上げ、関わりを大切にしながら暖かい心で商品を作っていきたいと思います。

後藤ゆりか（1年）：先輩に教わりついでいく形ではありましたが、店を開くために必要なこと、どうしたら買ってもらえるか、活動を進めていくための準備など、普段考えないようなことをたくさん考え、行動することができました。1年間の活動で見つかった成果や課題、反省を材料にし、今後のECOプロがよりよい活動になるために協力していきたいです。

近藤里菜（1年）：今までお客さん側だったイベントにも売る側として参加できたり、廃材からひとつずつ作品を作る感動を得られたりとても有意義な経験ができました。お客さんと直接はなしをし、アドバイスをいただいたり、作り方を教えあうなど交流の面でもいい経験となりました。今後はもっと多くの人に関心を持ってもらえるよう考え、自発的な活動を増やし発展させていきたいです。

野末志緒里（1年）：リーダーをして難しいと思ったのは、意見がバラバラの個人が集団でひとつの活動をするためにどう協力してもらえるかです。ただ商品を作るだけではそれを買ってもらえる嬉しさは実感できません。この1年の活動の反省と失敗や成果は次につながる経験になりました。

八重嶮友香（1年）：幼い頃からものづくりが好きで裁縫や編み物などで小物や雑貨を作っていました。四月のガイダンスでこの活

動のを知り、積極的に参加していきたいと思いリーダーになりました。ものをつくることはもちろん、どのようなものを買手は望んでいるか、どう工夫すればよりよいものが出来上がるかを考えながらものづくりをすることが非常に楽しく、また自分自身の力にもなったと思います。

1年間の活動についてのアンケートを1.2年生に行った。アンケートの質問項目は下記の9項目である。

問1. ECO+ものづくりプロジェクトに積極的に参加したか

問2. 活動を通して他学年との関わりが深まったか

問3. 活動を通してクラスの仲間との関わりが深まったか

問4. この活動の目的を理解しているか

問5. この1年間で自分にとってプラスになったことは何か（技術・知識・その他）

問6. この活動でいちばん興味を持ったことは何か

問7. この活動で問題に感じる点とその解決策があったら述べよ

問8. この経験から次年度この活動の一員としてやるべきことは何か

問9. その他自由記述

質問項目1・2・3についての回答は下記のようなであった。

問1についての回答（図6）から、「ほとんど参加していない」「全く参加していない」が1年生2名、2年生2名あるが、平成26年度からスタートさせた活動で、全員が集まることができる時間を確保できなかったためである。

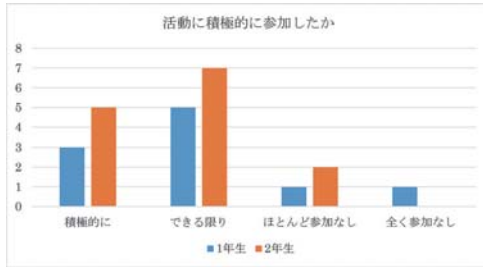


図6 参加

問2について(図7)「他学年との関わりが深まったか」の間に1年生1名を除き、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答しており、縦割りグループによる活動とそれぞれの学年からのリーダー選出による効果であると考えられる。また、2年生の1年生への働きかけ、声かけによる結果ではないかと考えられる。

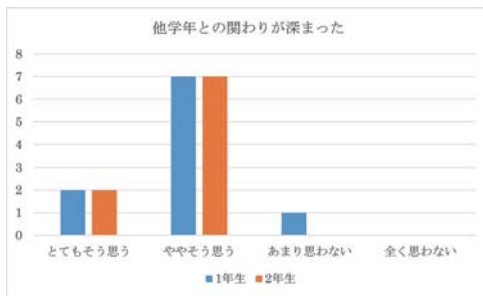


図7 他学年

問3について(図8)「同学年との関わりが深まったか」の間に1年生3名、2年生2名が「あまり思わない」と回答しており、他学年との関わりに比べ多くなっている。この活動のグループは縦割りとなっているが、情報交換やグループの連携がどのように重要であるか理解されていないためであると考えられる。

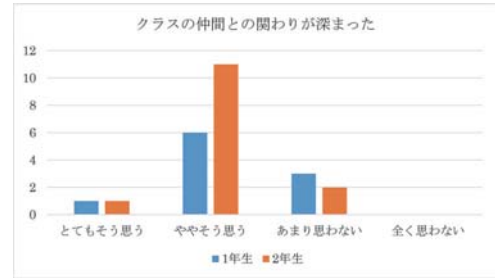


図8 クラスの仲間

回答者数が少ないためこれ以降は主な回答を記す。

問4について活動の目的を的確に理解している学生もいるが、教員になるための被服実技の向上のためだけを述べる学生が多いことがわかった。

問5についてこの活動で自分にプラスになったことの回答は、「ミシンや手縫いが上達した」「細かい作業ができるようになった」「作業工程が理解できるようになった」「作業がスムーズに行えるようになった」「丁寧な作業ができるようになった」「知らなかった技術を得た」「道具の使い方を知った」「教えることがうまくなった」「地域の人・小さい子を持つお母さんと関わることができた」「先輩と話ができた」「グループで協力して活動できた」などのほかに「特に思いあたらない」といった回答もみられた。

問6のこの活動でいちばん興味をもったことの回答は多くが大学祭等での出店であった。「販売」「商品企画」「ワークショップで多くの人と関わること」「技術を教えること」などに興味を持っているようである。その他「編み物」や「染色」といった回答もあった。

問7のこの活動での問題点と改善点についての回答は「グループ全員揃うことができない」「意識の差・温度差がある」「技術の差がある」「作品の質が低い」「作品にこだわりが感じられない」「リーダー会の内容が全メン

バーに伝わらない」「リーダーの負担が大きすぎる」「花作りばかりで有意義でない」「もっと広い視野でリサイクルを考えるべき」などであった。

問8の1年間の経験からこの活動の一員としてやるべきことは何かの回答は「積極的に参加する」「先輩のサポート」「リーダーだけに負担がかからないようにする」「活動時間を有意義にできるように考える」「計画的に運営する」「活動の幅を広げ有意義なものにする」「グループで協力する」「リーダーとして役割を果たしたい」「縦横のつながりを大切にする」「目標をもって活動する」「活動の目的を新入生に伝えていく」「技術を伝えていく」などがあった。

活動初年度で目的、内容、方向性、活動時間など全学生に徹底できていない部分があり活動に賛同しない学生もいたが、リーダーを中心とした積極的に活動をおこなっていた学生のパワーにひきつけられ、活動が活発になっていった。

(2) 平成27年度の活動状況

平成27年度はグループの再編成を行った。新入生を迎え、2,3年生の意識も変わったようである。

リーダー会の決定により、各グループのリーダー以外に3年生2名、2年生1名の「運営委員」を組織した。リーダーの負担が多いこと、全体の企画運営が困難であったことを改善していくためである。各グループのリーダー4名と運営委員3名でリーダー会を行い企画・運営をすることとした。

平成27年度の主な活動は表2に示したとおりである。(11月以降は予定)

表2 平成27年度の主な活動

| ECO+ものづくりプロジェクト 平成27年度活動報告 H27.11.20現在(それ以降は予定) | | |
|---|--|------------------------------------|
| 月 | 活動状況 | リーダー会等 |
| 4 | リーダー決定、グループ決定、 全員に趣旨の説明と活動計画を報告 | 運営・リーダー会 (活動の打合せ) |
| 4 | グループ活動開始 | |
| | 1年生技術指導 ECO Flower きんちゃく | 1年生技術指導期間 |
| 5 | グループ活動 | ECO F |
| | 1年生技術指導 きんちゃく 裏付きECOバッグ | 巾着・裏付きECOバッグの製作 |
| 6 | グループ活動 | 2・3年生は1年生指導とグループ |
| | 出店デモ | 製作商品の検討・試作 |
| | 小さなクラフト展 出店(岐阜市八幡町) | |
| | 1年生技術指導 きんちゃく 裏付きECOバッグ | |
| | 岐阜地域産学習連携交流会(ECO染色パネル発表) | 運営委員会 |
| 7 | グループ活動 | 運営・リーダー会 |
| | さぎ草祭商品について検討 | |
| | さぎ草祭商品の計画、製作 | |
| 8~9 | グループ活動 | |
| | さぎ草祭出店準備、商品の計画、製作 | |
| 8 | 懇親会(カレーパーティー) | |
| 10 | さぎ草祭(10/17.18) | 運営委員会 |
| | グループ活動 | |
| | | 運営・リーダー会 |
| | | (さぎ草祭について、商品、当番等決定と確認、HPについて) |
| | | 運営・リーダー会 |
| | | (経費について、さぎ草祭売り上げ、反省、吉祥寺クラフト展打合せ、他) |
| 12~1 | 「お母さんの手づくりを応援します」のための練習・準備 (きんちゃく袋、裕のレッスンバッグの製作をマスター) (きんちゃく袋、裕のレッスンバッグ販売用製作) (製作のプリントづくり、材料準備、キッド準備) | リーダー会 |
| 2 | 「お母さんの手づくりを応援します」のための練習・準備 (販売用袋製作) (材料、キッド準備) | 3年生 |
| | ワークショップ「お母さんの手づくりを応援します」開催 ワークショップ「子どもと一緒に小物を作る」開催 | |
| 2 | 織機関連工場見学等 | |

4. 今後の活動の課題と展望

平成26年度は活動開始1年目で活動時間の確保がしっかりできていなかったことなどもありアンケート回答にも「意識の差、温度差がある」「グループ全員揃うことができない」といった問題点が挙げられた。

平成27年度、活動2年目に入り1年生から3年生の全員が参加できる時間の確保はさらに困難となった。ダブルスクール、他学科履修科目とのバッティング、空きコマが少ないことが理由である。しかしリーダーの連携、運営委員とリーダーの連携、グループ活動の活性化、商品開発、企画力のアップなどで確実に出店の際の売り上げも増加し、グループ

の活動も活発になっているように感じる。2・3年生が1年生の実技指導を行い、全員が一定レベルに到達するようグループ単位で取り組む姿が見られた。

平成27年度も組織の見直し、活動の見直しを行い平成28年度の活動に反映させていけるよう運営委員会・リーダー会で話し合いを行っている。

平成28年度に向け運営委員は「新しい技術や知識を身につけよう」という目標を挙げている。今ある技術・知識だけではなく、できないことをできるようにする、知らないことを身につけるためにどのような活動を展開していくのか、学生の行動力・企画力・指導力に期待している。

参考文献

- 1) 高等学校学習指導要領解説 家庭科編
文部科学省 平成22年1月
- 2) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ 中央教育審議会
- 3) <http://www.nier.go.jp/>
国立教育政策研究所
- 4) <http://www.gijodai.ac.jp/ecopro/>
ECO+ものづくりプロジェクトブログ

